

2 伊豆地域の医療提供体制について

質問要旨

静岡県は、医療施設従事医師が令和2年全国40位と平成26年から変わっていない。また、看護職員も全国40位である。

伊豆地域の大きな心配事は、慢性的な医師不足・看護職員不足、特に医療関係者の高齢化である。伊豆半島全体では70歳以上の医師が191人も活躍されている。令和7年には賀茂圏域の診療所の医師の半分以上が70歳以上となる。県では、伊豆地域の医師、看護職員をどのように確保していくのか。

答弁内容

医師の確保については、医学修学研修資金の貸与を行うとともに、県内外の医科大学との連携や協力をを行い、将来の地域医療を支える人材の確保に取り組んでいる。浜松医科大学、順天堂大学など県内外の9大学に、本県で勤務する医師を養成する地域枠として、65人の入学定員を設置した。令和2年度入学者からは、卒業後9年間のうち4年間、特に賀茂圏域など医師少数区域の病院での勤務を義務付けている。令和8年度から、県内勤務が始まり、本県全体で毎年約60人ずつ増加することが見込まれている。

看護職員の確保については、令和4年度の新規貸与から、過疎地域等に勤務する看護職員の修学資金の返還免除に要する勤務年数の短縮を実施し、特に伊豆地域など過疎地域等への就業促進を図っている。



3 観光産業の回復に向けた支援について

質問要旨

新型コロナウイルス感染症の流行により、地域経済の担い手である観光産業は、深刻な打撃を受けた。国は、旅行費用を割り引くGo Toキャンペーンや都道府県への補助による県民割を実施し、令和4年10月からは全国旅行支援を開始したが、年明け以降も割引率を縮小して継続するとしつつ、いつまで続けるかは示していない。

答弁内容

観光産業は、宿泊、交通、飲食、物販等、関連する分野の裾野が広く、本県経済の活力の源であり、地域産業や雇用を支える重要な役割を果たしている。これまで本県では、観光産業の早期回復に向けて、観光促進事業「今こそしずおか 元気旅」の宿泊割引等の対象地域を順次拡大し、観光需要の喚起に取り組んできた。

年明け以降も、全国旅行支援による宿泊割引を継続する。それとともに、本県独自の観光促進事業を実施していく。

具体的には、地域の旬の食材や料理を楽しみ、その食文化にも触れながら旅をしていただく「食をテーマとした宿泊割引事業」や、需要が高まっているパラグライダーやアスレチックなどの「体験型アクティビティ割引事業」（いちご狩り含む）など、加えて、今後は、本格的な増加が見込まれる訪日外国人観光客向けの宿泊割引事業を新たに展開し、閑散期の需要喚起策を強化するとともに、地域経済の活性化につなげていく。



静岡新聞 令和4年12月10日

静岡県議会議員 [伊豆の国市選出]

もっとよし！レポート。



発行者:土屋もとよし 発行日:令和5年2月7日
〒410-2211 伊豆の国市長岡197-1 TEL.055-948-9635・055-948-0267 FAX.055-947-1811

土屋もとよし 県政報告 Vol.26

こんにちは！ 土屋もとよしです

静岡県、伊豆の国市を取り巻く様々な課題や問題に全力で取り組んで参りますので、皆様のご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

さて、今回は昨年12月に行った一般質問についてご報告させていただきます。

今年、伊豆中央道の無料化の期限を迎え、道路整備に関する動向が激しく変化する可能性もあります。皆様のご意見を伺いながら、地域の利益優先を考慮して県に働きかけ、今後も情報発信に努めてまいります。

また、政府は連休明けの5月8日から、新型コロナウイルス感染症を2類から5類に引き下げる方針を決定しました。しかし、地域の医療提供体制やワクチンや入院に関する医療費等、様々な課題が解決されていません。これらの課題についても安心・安全のコロナ対策が必要と感じており、



真剣に取り組みたいです。

今年こそは、明るい話題の多い一年になることを祈念しています。

議会傍聴に
行ってきました
(令和4年12月9日)



「静岡県議会
インターネット中継」

のページで
録画を見ることが
できます



情報発信中!! ぜひご視聴下さい



スマートフォンやパソコンでも
聴くことができます

「もっとよし！ラジオ」

毎月第2、第4月曜日12時～12時30分
再放送 同じ週の金曜日13時～13時30分



静岡県議会議員
もとよし
土屋源由



◎ご意見・ご要望などお気軽にお寄せください

土屋もとよし事務所

〒410-2211 伊豆の国市長岡197-1
TEL.055-948-9635・055-948-0267 FAX.055-947-1811



「もっとよし!!」
を合い言葉に!!



静岡県議会議員 土屋もとよし 検索 URL www.tsuchiya-m.com



メール会員を募集しております。携帯の方は左記のQRコードを読み込むか、moto@67865.r.at-ml.jp まで空メールをお送りください。パソコンの方はmoto@tsuchiya-m.comまで「メール会員希望」とご連絡ください。

土屋もとよし県政報告
『もっとよし！レポート。』

ご希望の方はご連絡ください



ご意見はこちらにお寄せください

(電話) 055-948-9635 または 055-948-0267
(FAX) 055-947-1811
(メールアドレス) moto@tsuchiya-m.com

1 伊豆地域の道路について

(1) 伊豆地域の道路整備

質問要旨 新東名・東名のインターから東駿河湾環状道路、伊豆中央道・修善寺道路、天城北道路と繋がり、快適で時間短縮できる道路として利便性も高く素晴らしい道路環境ができた。

しかし、観光シーズンに訪れると渋滞に巻き込まれる。期待される伊豆縦貫自動車道や伊豆湘南道路、静浦バイパスはいつになったら完成するのか、予定すら立っていない。

今後の伊豆半島に必要な道路の整備について、どのように考えているのか。

答弁内容 伊豆地域の道路は、急峻な斜面と川に挟まれ、山間部を中心に未改良区間や、法面崩壊の危険箇所が多く残っており、整備には多大な事業費が想定される。このため、円滑な交通の確保や防災上の観点から優先順位を付けて道路整備を進めている。まずは伊豆縦貫自動車道と、アクセス道路である国道・県道などの道路網を計画的に構築することとしている。

アクセス道路については、平成29年策定の伊豆半島の道路網整備実施計画に基づき整備を進めている。国道136号下船原バイパスなど12か所が完成し、現在、国道414号静浦バイパス、県道河津下田線など11か所の整備を着手している。

(3) 伊豆中央道、修善寺道路の料金徴収

質問要旨 地域住民には、割引等の利用促進を行っているが、利便性への配慮が欠けているように感じる。伊豆中央道・修善寺道路の料金徴収について伺う。

答弁内容 伊豆中央道・修善寺道路では、利用者の利便性向上のみならず、多頻度利用者への料金割引と新型コロナウイルス感染症拡大防止を図るため、令和3年7月にETC多目的利用サービス「ETCX」を導入した。

ETCXは、料金所における案内表示の改善、県

(2) 有料道路の在り方

質問要旨 令和5年10月2日に伊豆中央道・修善寺道路の無料化が見込まれる。利便性の高いこの有料道路のおかげで、地域環境は良くなった。

伊豆地域の有料道路は、採算制に疑問は残るが、地域の利便性や防災上の観点等、幅広い視点から整備の可否を検討する必要がある。県として地域が何を望んでいるのか意見聴取するべきと思う。どのように対応していくのか。



修善寺道路

答弁内容 伊豆地域の道路整備は、橋梁やトンネルなどの大規模構造物が多くなることが想定され、建設及び維持管理費用の確保が課題となる。

また、伊豆地域は、年間2千万人以上の観光交流客数を誇る観光地であり、訪れる方の約8割が自動車を利用する。

このため、利用者負担による有料道路事業は有力な選択肢と考えており、導入については、費用対効果や整備の優先度などを考慮した上で総合的な検討判断をしていく。



伊豆中央道料金所

道路公社ホームページや雑誌における広報など、利用環境の改善と利用率向上に取り組んでいるが、まだ十分とは言えない状況。引き続き道路公社と連携し、道路利用者の声を聴きながら、より利便性の高い料金収受となるよう改善に努めていく。

(4) 静浦バイパスの早期全線開通

質問要旨 国道414号静浦バイパスは、第1期工区2.5km(下香貫から大平)を令和4年度内に供用開始する予定である。

第1期工区に200億円、残りの工事費に300億円程度掛かると想定している。第1期工区でも30年近くかかっており、いつになったら伊豆の国市まで繋がるのか見当がつかない。静浦バイパスの早期全線開通に向けてどのように取り組んでいくのか。



静浦バイパス 大平側施工状況(空撮)

(5) 伊豆北部地域の道路渋滞

質問要旨 伊豆中央道の土日・祭日の交通量は県外からの観光客が加わり、料金徴収台数の一日最高は約23,000台と聞いている。

令和5年に無料道路となれば、今以上に国道136号バイパスが混雑し、大きな渋滞の発生が起きることは明白である。これらの渋滞解消の解決策について、抜本的な対応をどのように考えているのか。

答弁内容 静浦バイパス優先整備区間の開通により、大平インターチェンジに接続する県道原木沼津線を経由し、伊豆の国市を通過する交通量が増加することが懸念される。このため、函南町日守地内において、780m区間の道路拡幅を進めており、これまでに340mが完成した。引き続き残る440mの整備を進めていく。

また、伊豆の国市と連携し、市内の生活道路への流入対策を検討していく。

伊豆中央道・修善寺道路については、休日を中心に伊豆中央道の交通量が一日に2万台を超え、各所で渋滞が発生している。両道路を無料化した場合、交通量が大幅に増加し、渋滞や混雑の悪化が想定される。このため、東駿河湾環状道路の4車線化整備については、県としても有効な渋滞対策と考えている。伊豆縦貫自動車道に係る促進大会や国への要望活動により、関係市町と一体となって国に働き掛けている。

さらに、伊豆中央道・修善寺道路が、引き続き、高速性や定時性といった基幹道路としての機能を最大限発揮できるよう、料金徴収期間の延長を含め、渋滞の軽減に向けた総合的な検討を進めている。

答弁内容 414号静浦バイパスは、沼津市下香貫と伊豆の国市南江間を結ぶ約7kmの幹線道路である。沼津市静浦地内の渋滞緩和だけでなく、伊豆の国市内を通過する車両を三島方面と沼津方面に分散し、交通の円滑化につながることを期待される。加えて、伊豆地域全体への波及効果も期待される。

残る沼津市大平から伊豆の国市南江間までの約4.4km区間は、現在、測量や設計を進めている。この区間は、山間部に建設することで事業効果を早期に発現できるよう、通常の公共事業に加えて有料道路事業の活用を検討していく。一日も早い全線開通に向け、様々な手法を活用し、全力で取り組んでいく。



伊豆縦貫道

質問要旨 【再質問】料金徴収期間の延長も検討するような話は一度も聞いたことはない。改めて、地域の人に説明していただく必要がある。

答弁内容 両道路を無料化することによる渋滞の懸念等を踏まえ、伊豆地域の周辺道路も含めた全体の中で、料金徴収期間の延長の検討を進めているところ。まだ結論は出ていないが、早急に方針を固めて、地域住民を含め広く説明をしていく。